

日本海事財団
平成6年度補助事業

九州・山口と東アジア(華南経済圏を中心とした地域)を結ぶ
高規格国際海上輸送網の形成のあり方に関する調査研究

— 中間報告 —

平成7年3月

財団法人 九州海運振興センター

は し が き

本報告書は、当センターが「日本海事財団」の平成6年度から2ケ年にわたる補助事業として実施を計画した「九州・山口と東アジア(華南経済圏を中心とした地域)を結ぶ高規格国際海上輸送網の形成のあり方に関する調査研究」の平成6年度研究成果をとりまとめたものである。

近年、アジアの経済発展は目ざましく、中国東部沿海地域、特に香港・台湾を中心とした、いわゆる「華南経済圏」とよばれる地域は、「世界の成長センター」の一つとして注目を集めている。

九州・山口はこれらの地域と地理的に非常に近く、古くから経済や学術など文化的な面で様々な交流がなされ、深いつながりを持ってきた。

我が国は、今後さらにこれらの地域との相互依存度を高めていくことが予想されており、九州・山口地域はその要として位置づけられている。

一方、国際輸送においては、本格的な国際複合輸送時代を迎え、これに対応すべく高規格海上輸送手段の研究開発が進められている。

九州・山口と東アジアの両地域間における、このような高規格海上輸送手段の導入は両地域の発展に大きく貢献していくと考えられる。

このようなことから、本調査研究は、九州・山口と東アジアを結ぶ高規格国際海上輸送ルートの開設の可能性を追求し、海上輸送網形成の方策を提言するために実施したものである。

本年度は、「九州・山口と東アジアの相互交流の現状把握」「両地域の国際海上輸送の実態把握」「両地域を結ぶ高規格海上輸送網コンセプトの整理」等を実施した。

この報告書が、関係の方々にいささかなりともご参考になれば幸いである。

おわりに、本調査研究を実施するにあたって、終始ご指導、ご協力頂いた九州大学角 知憲教授をはじめ委員各位、関係官公庁並びに調査にご協力頂いた関係の方々に深く感謝の意を表する次第である。

平成7年3月

財団法人 九州海運振興センター
会 長 邑 本 義 一

『九州・山口と東アジア(華南経済圏を中心とした地域)を結ぶ
高規格国際海上輸送網の形成のあり方に関する調査研究』

委 員 名 簿

(順不同 敬称略)

委員長	角 知 憲	九州大学工学部教授
委員	樺 島 義 幸	福岡県企画振興部長
〃	松 尾 正 廣	佐賀県企画局長
〃	神 谷 俊 廣	長崎県企画部理事
〃	細 溝 清 史	熊本県企画開発部長
〃	木 内 喜美男	大分県企画総室長
〃	中 野 賢 行	宮崎県企画調整部長
〃	吉 留 史 郎	鹿児島県企画部長
〃	湯 田 克 治	山口県商工労働部長
〃	黒 田 省 司	㈱九州・山口経済連合会調査部長
〃	船 越 寛 三	三井物産㈱九州支社運輸部長
〃	南 昇	日本郵船㈱九州支店長
〃	山 田 裕 敏	大阪商船三井船舶㈱九州・門司支店長
〃	原 昌 久	日本通運㈱博多港支店長
〃	藤 岡 勲	山九㈱北九州支店長
〃	香 椎 裕 人	日本開発銀行福岡支店次長
〃	起 汐 勝	西日本日中貿易センター常任理事・事務局長
〃	柿 川 英 明	第四港湾建設局地域整備調整官
〃	大 黒 伊勢夫	九州運輸局企画部長
幹 事	福 島 満 哉	九州運輸局企画部貨物流通企画課長
事 務 局	吉 村 悦 男	㈱九州海運振興センター調査役
集計・解析	吉 井 元	㈱日本統計センター取締役営業部長
〃	綾 部 俊 也	〃 調査部

目 次

序章 調査概要

第1節 調査の背景と目的	1
第2節 調査計画	2

第1章 「九州・山口」と「東アジア」の経済動向と交流動向

第1節 アジア経済の概況	9
1 世界経済の動き	9
2 日本	9
3 中国	11
4 中国沿海地域（経済開放地域）	13
5 華南経済圏（中国広東省・福建省・海南省、香港、台湾）	14
第2節 九州・山口の産業動向	20
1 概 況	20
2 産業構造	20
第3節 企業進出	24
1 九州・山口圏内のアジアへの企業進出概要	24
2 九州企業のアジア進出の特徴	28
第4節 貿易動向	30
1 世界の貿易額	30
2 日本における輸出入額	30
3 日本の地域別輸出入構造	32
4 日本の商品別輸出入構造	32
5 九州における輸出入動向	33
第5節 物流基盤の整備状況	38
1 九州の物流基盤の現状	38
2 九州の物流基盤整備の将来動向	41
3 東アジアの主要港湾の整備状況	45
4 東アジアの主要空港の概要	49
第6節 要約と課題	51

第2章 「九州・山口」と「東アジア」を結ぶ国際海上貨物輸送

第1節 外貿海上出入貨物の動向	53
1 我が国の輸出貨物	53
2 我が国の輸入貨物	53
3 九州・山口の外貿海上出入貨物	56

第2節	外貿コンテナ貨物の動向	58
1	世界におけるコンテナ輸送	58
2	アジア域内航路	59
3	我が国における外貿コンテナ貨物	60
4	北九州・博多港の外貿コンテナ貨物	61
5	外貿コンテナ貨物の流動状況	67
第3節	要約と課題	75
第3章	「東アジア」と「我が国」を結ぶ国際航空貨物輸送	
第1節	我が国の国際貨物の流動動向	77
1	東アジアと我が国との定期航空便	77
2	日本に発着した国際貨物量	78
3	国際航空貨物の形態	80
4	九州発着・集中貨物の通関場所・利用空港	80
第2節	九州の空港における輸出入実績	83
第3節	要約と課題	87
第4章	高規格船利用意向に関するアンケート調査結果	
第1節	調査概要	89
1	調査の概要	89
2	標本構成	90
第2節	調査結果の総括	91
1	輸出入の現状	91
2	T S Lの利用意向(対東アジア)	92
3	T S Lの利用意向(国内)	92
4	総括	93
第3節	調査結果	94
1	東アジアとの輸出入の実態	94
2	輸出入における課題	98
3	東アジアとの輸出入の見通し	99
4	東アジア航路におけるT S L利用の可能性	102
5	国内航路におけるT S L利用の可能性	108
第5章	高規格船利用の可能性に関するヒアリング結果	
第1節	調査の概要	113
第2節	調査結果の総括	114
1	対東アジアとの輸出入の動向・問題点等について	114

2	関東・関西を中心とした国内輸送の動向・問題点について	115
3	T S Lあるいは高速コンテナ船に対する期待・利用意向（可能性）について	115
第6章 高規格国際海上輸送手段の開発状況		
第1節	テクノスーパーライナー	117
1	テクノスーパーライナーの概要	117
2	実海域試験	120
第2節	港湾と高速荷役システム	121
1	港湾荷役整備	121
2	蔵置施設	121
3	倉庫施設等	121
第7章 高規格国際海上輸送手段の対象貨物についての検討		
1	対象貨物についての考え方	123
2	対象貨物の定義	124
第8章 「九州・山口」と「東アジア」を結ぶ高規格国際海上輸送網基本コンセプト		
第1節	高規格国際海上輸送網形成の必要性	129
1	「高規格国際海上輸送網」の必要性	129
2	「九州・山口」と「東アジア」を結ぶ高規格国際海上輸送網の必要性	130
3	モーダルシフトという点からの要請	130
第2節	導入ルートの検討	131
1	荷主、物流企業の意向	131
2	現状の輸出入コンテナ貨物の実態	133
3	九州における輸出入コンテナ貨物の実態	135
4	相手国・港の抽出	137
第3節	想定されるルートの提案	139
1	国際ルートの検討	139
2	国内ルートについての考え方	142
3	「九州・山口」の港湾の位置	142
第9章	次年度の課題	143

詳細は当センターへお問合せ下さい

(財)九州運輸振興センター

電話 : 092-451-0469

e-mail : info@kyushu-transport.or.jp